

健幸拠点づくり推進事業

- Q みしまタニタ健康クラブの事務局の新たな拠点を三島市民体育館とするとのことだが、予算の減額の理由は。
- A 拠点を三島市民体育館に移し、現在の三島市民体育館の指定管理者に、体育館の業務と合わせて当該事業も委託することで、人件費の削減につながる。今後も、タニタ健康クラブに関する手続きはもちろん、体組成の測定や健康相談、さらに会員向けの健康教室や公民館等の巡回も行う予定である。

GIGAスクール推進事業

- Q ICT支援員の役割はどのようなものか。また、教員の方がICTに対応していくための今後の方針は。
- A 各教員にタブレットが配付され、自主研修をしており、さまざまな活用方法を考えているところである。機器の専門家であるICT支援員が各学校を回り、想定した活用方法の実現に向け相談を受け、そのほか情報の提供を行うなど、各学校のICTに関するレベルを上げることがICT支援員の役割である。ICTに対応していくための今後の方針としては、令和3年度においては、GIGAスクール推進リーダーを教育委員会で任命し、さらに、各学校のGIGAスクール担当者からなるGIGAスクール推進委員会を立ち上げ、情報共有をしながら取り組んでいく。



移住推進のための取り組み

- Q 「三島ぐらし住宅支援事業」や「住むなら三島移住サポート事業費補助金」等、さまざまな関連する事業や補助金を総合的なパッケージとして、どう三島市に移住していただく考えか。
- A 令和3年度は新築に限らず、中古住宅の流通にも注力したいと考えており、三島ぐらし住宅支援事業における既存住宅診断業務を行った住宅について、結果を市のホームページに掲載している。このような物件を選んでいただき、移住・子育てリフォーム事業費補助金を活用してリフォームした上で移住していただければ、非常に効果の高いものになると考えている。

駐車場特別会計

- Q 「市営中央駐車場」について、管理業務委託料が令和2年度と比べ、400万円ほど減額になっているが、その理由は。
- A 管理業務はシルバー人材センターに委託しているが、従来、24時間体制で係員が常駐していたところ、深夜の担い手の確保が難しいこともあり、令和元年度に行った各フロアの監視カメラの更新や令和2年度に行った新しい精算機の導入などにより、夜間は無人化して機械警備とすることで、その分の人件費分の委託料が削減できたものである。夜間の無人化を実現するためにさまざまな設備導入の初期費用がかかっているが、ランニングコストの減少により、その分については1年半から2年で回収できる見込みである。



人事案件に同意

○副市長の選任

副市長 千葉基広氏が令和3年3月31日をもって県へ帰任することとなり、また副市長 梅原薫氏の任期が令和3年4月1日をもって満了となります。さらに、令和3年4月2日から副市長の定数が1人となることに伴い、後任の副市長に同年4月1日付けで市川顯氏を選任することに同意しました。



市川副市長

(全会一致)

○教育長の任命

教育長西島玉枝氏の任期が令和3年3月31日に満了となることに伴い、引き続き西島氏を任命することに同意しました。

(全会一致)

Pick up 4

発議第1号

意見書の提出

○固定資産評価員の選任
令和3年4月1日付けで梅原薫氏が固定資産評価員を退任することに伴い、新たに鈴木昭彦氏を選任することに同意しました。

(全会一致)

Pick up 5

陳情第1号

陳情の審査

「政治活動のために使用する事務所に係る立札及び看板の類の表示に関する規程」の変更に関する陳情が提出されました。2月定例会最終日に総務委員会に付託され、3月25日に審査を行いました。賛成者なしで不採択すべきものとなりました。次の本会議で委員長報告が行われ、討論・採決される予定です。

予算審査

各常任委員会において、所管する各分野について詳しく審査しました。

公用自動車管理事業

- Q 令和2年度にカーシェアリングを導入したが、今後の予定は。
- A 全ての公用車をカーシェアリングにすることで、公用車の維持管理に係る人件費等のコストはほぼいらなくなるが、使用時間が少ないと事業者のメリットも少なくなる。今は使用時間が少なく、事業者の協力の中でやっただけである。現状では市の職員だけで使うシステムだが、例えば土日にオープンカーシェアとして市民に開放することにより使用時間を増やす仕組みを構築できれば継続できるのではと考えている。

移住・定住促進事業

- Q 新型コロナウイルスの影響を踏まえ、今後どのような形で実施していく方針か。
- A 三島市のポテンシャルの高さであるアクセスの良さ、恵まれた自然環境、文教都市であることなどを、首都圏にいかに関知していくということが人を呼び込むためには重要と考える。コロナの影響で価値観が大きく変わったことも追い風となっている。みしま移住定住研究会を官民連携で開催しているが、さらに三島市の移住者自身に移住アンバサダーとして移住生活をSNSで情報発信してもらい、PRしていきたい。

